

メディアワークショップ 自己評価表1

		基礎段階の学習者		自立した学習者		熟練した学習者	
		A1	A2	B1	B2	C1	C2
プロジェクトの達成度	記録能力	記録は面倒だけど、大切なことだと意識はできる。(SNSにも少しだけ記録をしようと思っっている。)	抜けはあるが記録してみても、便利なことだと意識している。	プロジェクトを進める時、記録を残すと他のメンバーにも伝わり、仕事がかどることが理解できる。	プロジェクトを進めるには記録を残すことが大切で、チームを動かすことができる。指示されれば、基本計画書、役割分担表などは話し合いながら作成できる。	プロジェクトに必要な書類があることが理解できる。書類を自発的に揃えることの意味が理解できる。i-TanQの活用で仕事が楽になると意識できる。プロジェクトの進行度合いによって、スケジュール表を修正することができる。	プロジェクト基本計画書、役割分担表、スケジュール表、WBS、ガントチャート等の書式を充分理解して、書類を作成することができる。SNSでの作業報告もi-TanQを活用して全て漏らさず記録することができる。
	情報共有能力	情報を発信しただけでは充分ではないとおぼろげに感じている。情報を伝えることは大切な作業だと意識はしている。	SNSや、電話、メール等を通じて、自分の作業報告をすることができる。	自分の作業報告をチーム内の人が見える状態で残す事ができる。	チーム内の全員に自分の作業状況が伝わるように心掛けた報告ができる。	チーム内での情報を、SNS、メール、電話、面談等を通して充分共有でき、整理することができる。	チーム内での情報を、SNS、メール、電話、面談等を通して充分共有でき、間違いなく伝える事ができる。
	コミュニケーション能力、チームワーク能力	プロジェクトの進行を妨げずに作業ができる。なんとなくみんなで協力できている。現状の作品をみんなと協力してつくり満足できる。	プロジェクトは常にうまくいっていると意識できる。チーム内での自分の力の位置づけができ、協力することができる。	プロジェクトには若干の問題点があると把握できる。チーム内の仲間の力を把握することができる。現状の作品の問題点を自分で把握できる。	プロジェクトの途中で予想外の問題が起きた時の問題解決の努力ができる。チーム内の仲間の力と自分の力を把握することができ、合わせる事ができる。現状の作品の問題点を把握してチームで共有することができる。	プロジェクトの途中で予想外の問題が起きた時に、自分では問題解決しようと思うことができる。チーム内での自分の力を活用して他のメンバーに影響を与えることができる。作品の「改善」を少しだけこころがけることができる。	プロジェクトの途中で予想外の問題が起きた時も、積極的に問題解決に協力することができる。チーム内の仲間の力を充分引き出すことができる。常に「改善」を心掛けて、チーム力を向上させることができる。

メディアワークショップ 自己評価表2

		基礎段階の学習者		自立した学習者		熟練した学習者	
		A1	A2	B1	B2	C1	C2
作品の質	伝達性	作品で伝える事がまだはつきりしていないが、何かを伝えようと思っている。	作品で伝えたいことを自分ではつきりと理解できる。	作品で伝える事を自分では理解できるが、人に伝えることは難しい作業だと意識できる。	作品で伝える事を視聴者を意識して作品に意識的こめる事ができる。	視聴者にうまく伝えるには伝統的手法を学ぶ事も大切であると把握できる。	視聴者を意識して、伝統的手法も取り入れて、作品にこめる事ができる。
	独創性 (自分量)	充分とは言えないが、独創的スタイルをこめた作品作りを目指す。	独創的スタイルを自分ではつきりと意識することができる。	独創的スタイルを追求できるが、人にうまく伝えるのは難しいことだと意識できる。	独創的スタイルを作品に充分こめることができ、視聴者に訴えることができる。	独創的スタイルを浮き上がらせる為に、伝統的手法を活用することが大切だと意識できる。	伝統的手法を充分踏まえながらも、独創的スタイルを導入して浮き上がらせる事ができる。

		基礎段階の学習者		自立した学習者		熟練した学習者	
		A1	A2	B1	B2	C1	C2
全体を通して	学びの継続性	なんとなくこの学びの意味が理解できる。	この学びが求めている方向性、ポイントが理解できる。	この学びが少しだけ自分で理解でき、整理することができる。	この学びを自分では充分理解でき、学びを深めようと努力できる。	この学びを少しだけ後輩にも伝えることができる。	この学びを充分把握でき、後輩にも間違いなく伝達できる。